

『学校力向上に関する総合実践事業』コーナー その12

今号では『本事業の1年間の振り返り』について紹介させていただきます。

本事業の推進に当たっては、1年間の成果と課題を検証するため、学校力向上達成目標（数値目標）を設定して、全教職員で共通意識のもと取り組んできました。下記に達成目標に対する結果と、課題に対する来年度の方策について示させていただきます。

- 学力向上プランによる目標達成型学習指導国語・算数単元テスト80%以上の児童が8割以上
→国語（81%）算数（84%）
- 子ども（学習・生活）スタンダードの定着80%以上
→学習（93%）生活（89%）
- 前の学年までに習った漢字が8割以上書ける児童80%以上
→100%（3月時点）
- 全国学力・学習状況調査全国平均以上…全国平均との差について下記に記載
→国語A（1.6）国語B（2.2）算数A（0.2）算数B（-0.3）
- CRT標準学力検査全国平均以上
→全国平均を100とすると国語（99%）算数（102%）
- 45分間の基本的な学習過程とノート指導の共通化による「授業が分りやすい」回答80%以上
→国語（98%）算数（98%）
- 長期休業中の「子ども朝活」参加50%以上（夏3日間・冬4日間実施）
→夏と冬を合わせた参加62%
- 地域人材を活用した体験活動
→保護者アンケートの肯定的な回答率100%
- 若手教員のテーマ別研修
→参加者アンケートの肯定的な回答率100%
- 「児童と向き合うための時間の確保」内部評価による肯定的な回答率80%以上 →85%
等については、達成目標を上回ることができています。



【今後の課題について】

●目標達成型学習指導について

「教えること」と「考えさせること」を適切に指導過程に位置づけた学習活動によって基礎的・基本的な学習内容の定着を図ります。

●子どもスタンダード（学習・生活）の確実な定着について

毎週金曜日の振り返りを次の週に生かすよう「できている子」「努力している子」をしっかりと認め、継続した指導で徹底を図ります。

●全国学力・学習状況調査のB問題のような発展的な課題について

協働的な学びの中で「習得」したことを生かし、「探究」し合う授業を通して発展的な課題を解決できる力を育成していきます。

本事業も、今年度は4年目を迎えました。これまでの4年間の取組から見てきた本校の強み（協力的なPTA・伝統芸能保存会など地域人材の豊かさ・外部アドバイザーによる先進的な研究情報など）を生かしながら、「檜山管内の教育研究をリードする」という使命感をもち、今後も学校力向上のより確かな歩みを踏み出していく所存です。

保護者、地域の皆様の一層のご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。